
運命のデジタル時計

たかぴょん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命のデジタル時計

【Nコード】

N0247D

【作者名】

たかぴょん

【あらすじ】

時計に支配される社会に誰がした？かつて喜劇王チャップリンが演じた『モダンタイムズ』が世界を、守銭奴よろしく刻んで行く。

一字一句を刻んで行く携帯電話画面右上に何かしらいぶかしく浮かぶ小さなデジタル時計。奴がこの世の中を牛耳っている。正確にいうと彼は現人神あらひとがみの一味だ。昭和初期日本の時計技術は北欧を追い越し、その精密さは？SEIKO？のブランドで知られる。間違いない奴は日本国籍だろう。

また右上のデジタル時計様（！）が顔と言っべきか、表情を変えた。運命の時間ときを世界共通の秒針で指し示めす。会社や学校の合否ハガキをめくる瞬間や「チキトクスグカエレ」物騒な機械文字で書かれた電報、それに終電発車時刻。世界を牛耳っているのは間違いなく現代神だ。

昔テレビのブラウン管に映るデジタル時計が恐かった。あと四十九分で社会へ飛び出す時間だ。顔中に冷や汗が出る。

いつそのことあんな信用が置けない会社、辞めてしまおうか。吐き気を催す中で、ただ口を開いて空くうを飲み込むのみである。

時計の夢を観た。わたし自身が、指先からローソクになって溶けて行く。しじまに響くチクタクをリズムとして、舞踏をしながら……。同種族はチクタクと呼吸をするものだが、デジタル時計だからモノラル音さえなく沈黙だった。午前二時十三分。天井はただ黄色い足場を照らす光を放つのみ。テレビ放映はすべて終了。わたしはリモコンで銀砂漠を移す機械を切った。すべてが不安になった。わたしはグリニッジ天文台にある世界時計の針を止めてやりたくなる。自由の女神像ぐらいある巨大時計の中へ潜り込んで、わが身を

もって世界を止めようとする。極悪犯罪行為に間違いない。わたし自身の見栄が発端で、年齢を鯖読んだことから解雇されたこともある。ともすれば私文書虚偽記載罪でお縄にかかった女性も多いはずだ。

顔の筋肉が固まり始めたわたしは、最近観念し出す。例の時計を止めるに等しい行為をしてしまうと、世界人類共通の進歩を止めてしまあかねない。次世代に譲ろうとする謙虚な気持ちがあるから、老舗商売や科学技術、文化は効率的なモチベーションを保りつつ、更なる一步を踏みしめる。

時間に食われるものは、食物連鎖の潤滑油となるしかない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0247d/>

運命のデジタル時計

2010年12月10日18時21分発行